

1.	①	11.	④	21.	③	31.	④	41.	③
2.	③	12.	①	22.	②	32.	②	42.	③
3.	①	13.	①	23.	③	33.	①	43.	①
4.	①	14.	②	24.	②	34.	④	44.	④
5.	①	15.	①	25.	①	35.	③	45.	③
6.	④	16.	②	26.	③	36.	①	46.	④
7.	①	17.	③	27.	②	37.	①	47.	②
8.	②	18.	④	28.	②	38.	④	48.	④
9.	③	19.	②	29.	②	39.	③	49.	②
10.	③	20.	②	30.	③	40.	③	50.	①

1.

解答 ①

【解説】

正解は①harmです。人や物に対する「害、危害、損害」を意味する最も基本的な名詞です。動詞としても「～に害を与える」という意味で使われます。do harm to ~ (～に害を及ぼす) や cause harm to ~ (～に害をもたらす) といった形で頻繁に用いられます。②issue は「問題(点)、論点」、③fault は「欠点、過失、責任」、④loss は「失うこと、損失」を意味し、それぞれニュアンスが異なります。

◆補足：harm は不可算名詞として扱われるのが一般的です。形容詞形は harmful (有害な)、副詞形は harmless (無害な) で、これらも非常に重要です。harmful effects (有害な影響)、harmless insects (無害な昆虫) のように使います。類義語の damage は、主に物に対する物理的な「損傷、損害」を指すのに対し、harm は人や動物の身体的・精神的な「害」や、物事への抽象的な「害」など、より広い範囲で使われる傾向があります。

2.

解答 ③

【解説】

正解は③「さらに、その上」です。furthermore は、前の文で述べたことに加えて、さらに別の情報や論点を付け加えるときに使われる接続副詞です。The house is too small. Furthermore, it is too far from the station. (その家は小さすぎる。その上、駅から遠すぎる)。①「しかしながら」は however、②「それゆえに」は therefore、④「さもなければ」は otherwise が適切です。

◆補足：furthermore は、追加する情報が、前の情報と同じ方向性で、かつより重要な論点であることを示すことが多いです。類義語に moreover, in addition, besides などがあります。これらのうち、furthermore と moreover は特にフォーマルな響きを持ち、論文や公式なスピーチなどで好まれます。

3.

解答 ①

【解説】

正解は①persuade です。この動詞は、人を説得して何かをさせたり、何かを信じさせたりすることを意味します。persuade someone to do ((人)を説得して～させる)の形が基本です。I persuaded him to join our team. (私は彼を説得して我々のチームに参加させた)。②pursue は「～を追求する」、③purchase は「～を購入する」、④perceive は「～を知覚する、理解する」という意味です。

◆補足：persuade の名詞形は persuasion (説得)、形容詞形は persuasive (説得力のある)です。類義語の convince も「説得する」ですが、persuade が「行動」を促すのに対し、convince は「考え」を納得させるというニュアンスの違いがあります。ただし、日常的には互換的に使われることも多いです。

4.

解答 ①

【解説】

正解は①pressure です。この単語は、物理的に押す力である「圧力」と、精神的に感じる「重圧、プレッシャー」の両方を意味する不可算名詞です。blood pressure (血圧)や feel pressure (プレッシャーを感じる)のように使います。②pleasure は「喜び」、③treasure は「宝物」、④leisure は「余暇」という意味で、いずれも pressure と音が似ているので注意が必要です。

◆補足：pressure は動詞 press (押す)の関連語です。put pressure on ~で「～に圧力をかける」という重要な熟語になります。また、under pressure で「プレッシャーの中で」という意味になります。
例：He works well under pressure. (彼はプレッシャーの中でうまく仕事ができる)。

5.

解答 ①

【解説】

正解は①「生き物」です。creature は、人間以外の動物、特に神話や想像上のものを含む「生き物、動物」全般を指す言葉です。sea creatures (海の生き物)や a mythical creature (神話上の生き物)のように使われます。②「文化」は culture、④「特徴」は feature です。③「創造者」は creator で、create (創造する)という動詞から派生した単語であり、creature (創造されたもの＝生き物)と対になる関係ですが、意味は異なります。

◆補足：creature は動詞 create (創造する)から来ており、「創造されたもの」というのが元々の意味です。ここから「生き物」という意味で使われるようになりました。living thing や animal が類義語として挙げられます。animal が主に「動物」を指すのに対し、creature は昆虫や想像上の怪物など、

より広範囲の「生き物」をカバーするニュアンスがあります。また、**a creature of habit** という表現は「習慣の動物」、つまり「いつも決まった行動をとる人」を意味する面白い言い回しです。

6.

解答 ④

【解説】

正解は④「持続可能な」です。**sustainable** は、特に環境や経済、社会について、将来にわたって維持し続けることができる、という意味で使われる現代の重要語彙です。**sustainable development**（持続可能な開発）や **sustainable energy**（持続可能エネルギー）などが典型的な例です。①「入手可能な」は **available**、②「責任がある」は **responsible**、③「かなりの、相当な」は **substantial** が適切な単語です。

◆補足：**sustainable** は動詞 **sustain**（～を維持する、支える）と接尾辞 **-able**（～できる）が組み合わさった単語です。**sustain** はラテン語の **sub-**（下に）と **tenere**（保つ）に由来し、「下から保つ」→「支える、維持する」という意味を持ちます。名詞形は **sustainability**（持続可能性）で、これも環境問題や **SDGs** の文脈で非常によく使われます。

7.

解答 ①

【解説】

正解は①**frequently** です。この副詞は、何かが「しばしば、頻繁に、たびたび」起こることを示します。**often** よりもフォーマルな響きを持つ単語です。**This bus runs frequently.**（このバスは頻繁に運行している）。②**formerly** は「以前は、かつては」、③**fluently** は「流暢に」、④**finally** は「ついに、最終的に」という意味です。

◆補足：**frequently** の形容詞形は **frequent**（頻繁な）です。名詞形は **frequency**（頻度、周波数）で、これも重要です。**often** は日常会話で最も一般的に使われる「しばしば」ですが、**frequently** は書き言葉や少し改まった場面で好まれます。**regularly**（定期的に）や **repeatedly**（繰り返し）なども似た意味を持つ副詞として覚えておくと良いでしょう。

8.

解答 ②

【解説】

正解は②**career** です。この単語は、人が一生のうちに就く一連の職業や、その特定の職業における進歩や発展、すなわち「経歴、キャリア、職業人生」を指します。**She has a successful career as a lawyer.**（彼女は弁護士として輝かしい経歴を持っている）。①**carrier** は「運ぶ人・もの、航空会社」という意

味で、career と混同しやすいので注意が必要です。③character は「性格、登場人物」、④college は「大学」です。

◆補足：career と job の違いを理解しましょう。job は特定の「職、仕事」を指すのに対し、career はより長期的・専門的な「職業、経歴」全体を指します。例えば、一日にいくつかの job（アルバイトなど）をすることはあっても、career は通常一つです。career path（キャリアパス、出世街道）や career change（転職）などの表現も重要です。

9.

解答 ③

【解説】

正解は③vehicle です。この単語は、主に陸上の「乗り物、車両」を指す総称として使われます。car, bus, truckなどをまとめて指す言葉です。motor vehicles（自動車）や electric vehicle（電気自動車）のように使われます。①vessel は、主に大型の「船」を指す言葉です。②voyage は「船旅、航海」、④venture は「冒険的事業」という意味です。

◆補足：vehicle の発音は/ˈviːkl/（ヴィーイクル）で、h は発音しない黙字である点に注意が必要です。また、比喩的に、考えなどを伝えるための「媒体、手段」という意味で使われることもあります。例：Language is the vehicle of thought.（言語は思考の媒体である）。これはややフォーマルな用法です。

10.

解答 ③

【解説】

正解は③「～するよう強く勧められる」です。動詞 urge は「～を強く促す、説得する」という意味で、その受動態である be urged to do は、誰かから何かをするように力強く勧められたり、説得されたりすることを表します。Visitors are urged to book their tickets in advance.（訪問者は前もってチケットを予約するよう強く勧められます）。①「～することに慣れている」は be used to doing、②「～することになっている」は be supposed to do、④「～することをためらう」は hesitate to do です。

◆補足：urge は、単に「勧める」(recommend) よりも、緊急性や重要性が高く、相手に行動を強く「促す」というニュアンスがあります。名詞としても「(抑えがたい) 衝動」という意味で使われます。例：an urge to laugh（笑いたい衝動）。

11.

解答 ④

【解説】

正解は④「本当に」です。**indeed** は、直前の発言や形容詞を強調して「本当に、実に、確かに」という意味を表す副詞です。この例文では **very cold** をさらに強めて「本当にとても寒かった」というニュアンスになります。また、相手の発言を受けて「ええ、本当にそうです」と同意を示す際にも使われます。①「ほとんど」は **almost**、②「その代わりに」は **instead**、③「～だけれども」は接続詞の **though** や **although** が適切です。

◆補足：**indeed** は **in deed**（実際に行為において）という2語が1語になったものです。用法は主に二つあり、一つは設問のような **very** や形容詞・副詞を強調する使い方（**Thank you very much indeed.**）、もう一つは前の文の内容を肯定し、さらに情報を付け加える使い方です（**He is a great scholar. Indeed, he is one of the greatest.**）。後者の場合は、文頭で使われることが多く、ややフォーマルな響きを持ちます。

12.

解答 ①

【解説】

正解は①**argue** です。この動詞は、誰かと意見が合わずに「口論する、言い争う」ことを意味します。**argue with someone about something** の形で使われることが多いです。また、理由を示して自説を「論じる、主張する」という意味もあります。②**agree** は「同意する」で、**argue** の対義語にあたります。③**ignore** は「～を無視する」、④**praise** は「～を褒める」という意味です。

◆補足：**argue** の名詞形は **argument** で、「口論」と「議論、主張」の両方の意味を持ちます。類義語の **discuss** は、問題解決のために冷静に「話し合う」というニュアンスで、怒りの感情は含みません。**quarrel** は **argue** と似ていますが、より感情的で個人的な「口げんか」を指すことが多いです。

13.

解答 ①

【解説】

正解は①**notice** です。この動詞は、五感（視覚や聴覚など）を使って、何かを見たり聞いたりして「気づく」ことを意味します。**I noticed that he had a new haircut.**（私は彼が新しい髪形にしていることに気づいた）。②**realize** も「気づく」と訳されますが、こちらは状況を理解したり事実を悟ったりするなど、頭脳的な認識を表します。③**wonder** は「～かなと思う」、④**guess** は「～だと推測する」という意味です。

◆補足：**notice** と **realize** の使い分けは重要です。**notice** は知覚（**perceive**）に、**realize** は認識（**understand**）に関わります。例えば、友人が新しいメガネをかけていることに「気づく」のは **notice**、後でそれが自分のものと同じブランドだと「気づく（悟る）」のは **realize** です。また、**notice** は名詞として「通知、掲示、予告」という意味も持ち、**give notice**（通知する）や **without notice**（予告なしに）といった表現で使われます。

14.

解答 ②

【解説】

正解は②「～するつもりである」です。intend to do は、何かをしようという「意図」があることを表す表現で、plan to do（～する計画だ）よりもフォーマルな響きがあります。I intend to study abroad next year.（私は来年、留学するつもりです）。①「～するふりをする」は pretend to do、③「～しがちである」は tend to do、④「～しようと試みる」は attempt to do が適切です。

◆補足：intend の名詞形は intention（意図）で、have no intention of doing（～するつもりは毛頭ない）という表現は頻出です。形容詞 intentional（意図的な）とその副詞 intentionally（意図的に）も重要です。intend A for B（A を B のために意図する）や be intended for ~（～向けである）という形も覚えておくと良いでしょう。

15.

解答 ①

【解説】

正解は①excessive です。この形容詞は、量、程度、価格などが「過度の、過剰な、法外な」であることを示し、通常はネガティブな意味合いで使われます。excessive drinking（過度の飲酒）や excessive demands（過剰な要求）のように使います。②expensive は「高価な」、③exclusive は「排他的な、独占的な」、④extensive は「広範囲の、大規模な」という意味で、いずれも文脈に合いません。

◆補足：excessive は、動詞 exceed（～を超える）や名詞 excess（超過、過剰）の関連語です。語源はラテン語の ex-（外へ）と cedere（行く）で、「限界の外へ行く」というのが元の意味です。これが「超過」や「過度」という意味につながっています。in excess of ~で「～を超えて」という表現も重要です。例：The costs were in excess of \$1,000.（費用は 1000 ドルを超えていた）。

16.

解答 ②

【解説】

正解は②hand down です。この句動詞は、親から子へ、あるいは上の世代から下の世代へと、伝統、技術、財産などを「伝える、譲り渡す」という意味で使われます。down（下へ）という方向が、世代が下っていくイメージと結びついています。These skills have been handed down from generation to generation.（これらの技術は代々受け継がれてきた）。①hand in は「（宿題などを）提出する」、③hand out は「（プリントなどを）配布する」、④hand over は「（権力や物を）引き渡す」という意味です。

◆補足：hand down には、他に裁判官が判決を「言い渡す」という意味もあります。例：The judge handed down a guilty verdict. (裁判官は有罪判決を言い渡した)。これも、上の立場から下の立場へ「下ろす」というイメージで捉えることができます。

17.

解答 ③

【解説】

正解は③「～を再生利用する」です。recycle は、使用済みの物を原料に戻し、新しい製品として作り変えることを指します。いわゆる「リサイクル」です。We recycle glass bottles and cans. (私たちはガラス瓶と缶をリサイクルしている)。②「～を再利用する」(reuse) は、物をそのままの形でもう一度使うことを意味し、recycle とは区別されます。①「～を減らす」は reduce、④「～を修理する」は repair です。これらは環境保護の 3R (Reduce, Reuse, Recycle) として重要です。

◆補足：recycle の語源は、re- (再び) と cycle (循環) が組み合わさったもので、「再び循環させる」というのが元の意味です。名詞形も recycling (リサイクル) としてよく使われます。recycling bin (リサイクル用ごみ箱) や recycling center (リサイクルセンター) などの複合語も頻出です。

18.

解答 ④

【解説】

正解は④「複雑な」です。complex は、多くの異なる部分から成り立っていて、理解したり説明したりするのが難しい状態を表す形容詞です。a complex problem (複雑な問題) のように使います。①「完全な」は complete、②「競争力のある」は competitive、③「思いやりのある」は compassionate が適切な単語です。

◆補足：complex の名詞形は complexity (複雑さ) です。対義語は simple (単純な) です。類義語の complicated も「複雑な」と訳されますが、complicated は不要な部分が多くて「ややこしい、込み入っている」というネガティブなニュアンスを含むことがあります。一方、complex は単に構造が「複合的で複雑」であることを客観的に示すことが多いです。名詞として a sports complex (複合スポーツ施設) のように「複合体、複合施設」を意味することもあります。

19.

解答 ②

【解説】

正解は②「～を伸ばす」です。stretch は、手足などの体の一部や、ゴムのような伸縮性のある物を「伸ばす、広げる」という意味の動詞です。運動前の準備体操で行う「ストレッチ」もこの単語から来

ています。He stretched his arms above his head. (彼は両腕を頭の上に伸ばした)。①「～をつかむ」は catch や grab、③「～に触れる」は touch、④「～を打つ」は strike や hit が適切です。

◆補足：stretch は他動詞として「～を伸ばす」の他に、自動詞として「伸びる、広がる」という意味でも使われます。例：The forest stretches for miles. (その森は何マイルも広がっている)。また、名詞としては「伸ばすこと、ストレッチ」や、「(土地や時間の) 広がり、期間」といった意味も持ちます。a long stretch of road (長く続く道)。

20.

解答 ②

【解説】

正解は②「それに応じて」です。accordingly は、前述の状況や理由を受けて、「それに応じて、その結果として、したがって」という意味を表す副詞です。The rules have changed, so you must act accordingly. (規則が変わったので、あなたはそれに応じて行動しなければならない)。①「偶然に」は accidentally、③「正確に」は accurately、④「およそ」は approximately です。

◆補足：accordingly は、前置詞句 according to ~ (～によれば) と関連付けて覚えましょう。according to the plan (計画によれば) という情報があり、その情報に「応じて」行動するのが act accordingly です。therefore や so、consequently と意味が似ていますが、accordingly は「(前の事実)に 適合するように」というニュアンスが強いのが特徴です。

21.

解答 ③

【解説】

正解は③beneficial です。この形容詞は、健康、知識、状況などに対して良い影響を与え、「有益な、ためになる」ことを表します。通常、be beneficial to/for ~の形で使われます。Regular exercise is beneficial to your health. (定期的な運動は健康に良い)。①official は「公式の」、②financial は「財政の、金融の」、④artificial は「人工的な」という意味です。

◆補足：beneficial の語源は、ラテン語の bene (良く) と facere (行う) に由来し、「良い行いをする」ことが元の意味です。名詞 benefit (利益、恩恵) の形容詞形と覚えておきましょう。類義語には helpful (役立つ)、useful (便利な)、valuable (価値のある) などがありますが、beneficial は特に健康や幸福への長期的な「利益」というニュアンスを持つことが多い、ややフォーマルな単語です。

22.

解答 ②

【解説】

正解は②project です。project は、学校の課題や会社の事業など、決められた期間内に特定の目的を達成するために慎重に計画された活動を指します。a school project（学校の研究課題）や a construction project（建設事業）のように使います。①process は「過程、工程」、③product は「製品」、④prospect は「見込み、展望」という意味で、それぞれ異なります。

◆補足：project は、名詞の場合は最初の音節に（プロ）、動詞の場合は後の音節に（ジェクト）アクセントが置かれることが多いです。動詞の project には「～を予測する、見積もる」や「～を映し出す」といった重要な意味があります。Sales are projected to increase.（売上は増加すると予測されている）。名詞と動詞で意味と発音が異なる多義語として注意が必要です。

23.

解答 ③

【解説】

正解は③a number of です。この表現は「たくさんの、いくつかの」という意味で、many と似た意味を表し、後ろには必ず可算名詞の複数形が続きます。A number of students were absent.（多くの生徒が欠席していた）。①the number of ~は「～の数」という意味で、単数扱いになるため、a number of との区別は極めて重要です。②a couple of は「2 つか 3 つの～」、④a great deal of は「たくさんの～」ですが、後ろには不可算名詞が続きます。

◆補足：a number of ~が主語になると、複数扱いになります（例：A number of people are waiting.）。一方、the number of ~が主語になると、the number（その数）自体が主語なので単数扱いになります（例：The number of people is increasing.）。この動詞の一致は、文法問題で頻繁に問われるポイントです。a large number of ~で「非常に多くの～」というように、number の前に形容詞を置くことで、その多さを強調できます。

24.

解答 ②

【解説】

正解は②「場合」です。case は「箱」「事件」「訴訟」「症例」など多くの意味を持つ多義語ですが、in that case や in case of ~といった熟語では「状況、事情、場合」を意味します。設問の文は「その場合には、弁護士に相談すべきです」という意味になります。③「箱」や④「事件」も case が持つ意味ですが、この文脈には適合しません。①「主張」は claim や argument などが適切です。

◆補足：case の多義性を理解することは重要です。①状況・場合: in case of emergency（緊急の場合には）。②事例・実情: a classic case of bullying（いじめの典型的な事例）。③事件・訴訟: a murder case（殺人事件）。④箱・容器: a pencil case（筆箱）。⑤（病気の）症例: a case of the flu（インフルエンザの症例）。as is often the case（よくあることだが）や That's not the case.（そうではない）といった慣用表現も頻出です。

25.

解答 ①

【解説】

正解は①global です。この形容詞は、地球全体に関わること、すなわち「世界的な、地球規模の」という意味で使われます。global warming（地球温暖化）や the global economy（世界経済）など、現代社会を語る上で不可欠な単語です。②local は「その地方の、地域の」で、global の対義語です。

③rural は「田舎の」、④urban は「都市の」という意味です。

◆補足：global は名詞 globe（地球、球体）の形容詞形です。globalization（グローバル化）という名詞も重要です。類義語に international（国際的な）がありますが、international が「国家と国家の間の」という関係性を指すのに対し、global は地球全体を一つの単位として捉えるニュアンスがあります。

26.

解答 ③

【解説】

正解は③campaign です。この単語は、特定の目的を達成するために行われる、計画的な一連の活動を指します。特に、an election campaign（選挙運動）や an advertising campaign（広告キャンペーン）のように、政治、社会、商業の分野でよく使われます。①company は「会社」、②captain は「船長、主将」、④complaint は「不平、苦情」という意味です。

◆補足：campaign と似た意味を持つ movement は、より草の根的で長期的な社会全体の「(思想) 運動」を指すことが多いのに対し、campaign はより計画的で、期間が定められた具体的な「活動」を指すことが多いです。campaign の語源は、ラテン語の campus（平原、野原）で、元々は軍隊が野原で行う「軍事行動」を意味していました。

27.

解答 ②

【解説】

正解は②contribute です。この動詞は、良い目的や結果に対して「貢献する」、あるいは何らかの事象に対して「一因となる」という、ポジティブ・ネガティブ両方の文脈で使われます。通常、contribute to ~ の形で用いられます。例：He contributed to the team's victory.（彼はチームの勝利に貢献した）。①compete は「競争する」、③complain は「不平を言う」、④distribute は「～を分配する、配布する」という意味の動詞であり、文脈に合いません。

◆補足：contribute の語源は、ラテン語の con-（共に）と tribuere（与える）に由来し、「共に与える」というのが本来の意味です。名詞形は contribution（貢献、寄付）で、これも重要語です。make a contribution to ~（～に貢献する）という形でよく使われます。distribute（分配する）も同じ tribute 系の語源ですが、dis-（離れて）がつくことで「個々に分けて与える」というニュアンスになります。

28.

解答 ②

【解説】

正解は②「(社会的な) 運動」です。movement は、体の「動き、動作」という基本的な意味の他に、特定の目的 (sociais, políticos, ou artísticos) を持った人々の集団的な活動、すなわち「運動」を意味します。この例文は「公民権運動は人種差別に反対して戦った」という意味です。③「動き、動作」も movement の正しい意味ですが、この文脈には合いません。①「改善」は improvement、④「瞬間」は moment です。

◆補足：movement は動詞 move (動く) の名詞形です。a peace movement (平和運動) や an environmental movement (環境運動) のように、様々な社会活動を表すのに使われます。体の動きを指す場合は、eye movements (目の動き) のように、通常は可算名詞として扱われます。

29.

解答 ②

【解説】

正解は②even though です。これは「～という事実にもかかわらず」と、既知の事実を認めた上で、それと矛盾する内容が主節で述べられることを示す接続詞です。although や though とほぼ同じ意味ですが、even が付くことで逆接の意味がより強調されます。①as if は「まるで～かのように」、③in case は「～するといけないから、～の場合に備えて」、④so that は「～するために (目的)」や「その結果～ (結果)」を意味し、いずれも文脈に合いません。

◆補足：even though, although, though はすべて逆接を表す接続詞で、後ろに「主語+動詞」の節が続きます。though は最も口語的で、文末で使われることもあります。although は標準的で、ややフォーマルな響きを持ちます。even though は、事実を強調し、驚きや予想外の気持ちを込めて「～であるにもかかわらず」と言いたいときに使われます。似た意味の前置詞 despite や in spite of は、後ろに名詞 (句) が続く点が大きな違いです。例：despite the rain (雨にもかかわらず)。

30.

解答 ③

【解説】

正解は③tiny です。small よりもさらに小さいことを強調する形容詞で、「極めて小さい」「ごくわずかな」といった意味を表します。a tiny insect (とても小さな昆虫) や a tiny amount of salt (ほんのわずかな量の塩) のように、具体的な物の小ささだけでなく、量の少なさを表現するのにも使えます。

①huge は「巨大な」という反対の意味の単語です。②heavy は「重い」、④simple は「単純な、簡単な」という意味で、文脈に合いません。

◆補足：tiny は very small をより簡潔に、そして感情を込めて表現する言葉です。類義語には minute (マイニユートと発音)、minuscule、microscopic などがあります。minute は科学的な文脈で「微細な」という意味で使われることが多いです。minuscule は tiny と同様に使えますが、よりフォーマルな響きがあります。microscopic は「顕微鏡でしか見えないほど小さい」という、極端な小ささを表します。これらの単語を使い分けることで、表現の幅が広がります。

31.

解答 ④

【解説】

正解は④「筋肉」です。muscle は、体を動かすための組織である「筋肉」を指します。build muscle (筋肉をつける) や pull a muscle (肉離れを起こす) といった表現でよく使われます。①「骨」は bone、②「脳」は brain、③「皮膚」は skin がそれぞれ対応する単語です。これらは体に関する基本的な語彙なので、まとめて覚えておきましょう。

◆補足：muscle は、ラテン語で「小さなネズミ」を意味する musculus に由来します。力こぶを動かしたときの様子が、皮膚の下をネズミが走っているように見えたことから、このように呼ばれるようになったと言われています。形容詞形は muscular (筋肉質の、筋骨たくましい) です。また、比喩的に「腕力、実力、影響力」といった意味で使われることもあります。

32.

解答 ②

【解説】

正解は②「～を下げる」です。lower は形容詞 low (低い) の比較級として「より低い」という意味でよく知られていますが、動詞としては、物、価格、温度、レベルなどを「下げる、低くする」という意味で使われます。Please lower your voice. (声を下げてください)。③「より低い」は形容詞としての意味なので、この問題では不正解です。①「～を失う」は lose、④「～を許す」は allow です。

◆補足：動詞 lower は、raise (～を上げる) の対義語としてセットで覚えると効果的です。reduce も「～を下げる、減らす」という意味ですが、reduce が数量や規模に焦点を当てるのに対し、lower は位置や水準に焦点を当てることが多いです。lower the price (価格を下げる)、lower expectations (期待値を下げる) などの使い方があります。

33.

解答 ①

【解説】

正解は①「研究者」です。researcher は、動詞 research (研究する) に、人を表す接尾辞 -er がついた形で、「研究を行う人、研究者、調査員」を意味します。university researchers (大学の研究者たち)

のように使われます。②「建築家」は **architect**、③「記者」は **reporter** や **journalist**、④「役人」は **officer** や **official** がそれぞれ対応する単語です。

◆**補足**：research（研究）という単語自体は、re-（再び）と search（探す）から成り立っており、「繰り返し徹底的に探求すること」が元の意味です。do research や conduct research（研究を行う）というコロケーションで使われることが多いです。また、research は名詞として使う場合、基本的に不可算名詞であることに注意が必要です。

34.

解答 ④

【解説】

正解は④「労働争議」です。strike は動詞として「～を打つ」という基本義のほか、多くの意味を持ちますが、on strike という形で、労働者が賃金や労働条件の改善を求めて行う「ストライキ、労働争議」を意味します。①「攻撃」は attack、②「衝突」は collision や crash、③「打撃」は blow などがより一般的です。

◆**補足**：strike の多義性を理解することは重要です。動詞として①～を打つ、叩く、②（考えなどが心に）浮かぶ（例：A good idea struck me.）、③（災害などが）～を襲う（例：The earthquake struck the city.）などの意味があります。過去形・過去分詞形が struck であることも覚えておきましょう。

35.

解答 ③

【解説】

正解は③possibility です。「何かが起こるかもしれない」という「可能性、見込み」を意味する名詞です。There is a possibility that it will rain tomorrow.（明日雨が降る可能性がある）。①ability は、人が何かをできる「能力、才能」を指します。②quality は「質」、④security は「安全、警備」という意味です。

◆**補足**：possibility は形容詞 possible（可能な）の名詞形です。よく似た単語に probability（確率、見込み）と likelihood（可能性、ありそうなこと）があります。possibility は単に「起こるか起こらないか」が 0%ではない状態（あり得る）を指すのに対し、probability は数学的な「確率」や、それが起こる見込みがどの程度高いかを問題にします。likelihood は probability と似ていますが、より日常的な「ありそうなこと」というニュアンスで使われます。

36.

解答 ①

【解説】

正解は①「使用法、語法」です。usage は、物事の「使い方、使用法」や、言葉の「語法、慣用法」を意味する名詞です。This dictionary provides examples of modern English usage. (この辞書は現代英語の語法の例を提示している)。②「習慣」は custom や habit、③「メッセージ」は message、④「荷物」は baggage や luggage が適切です。

◆補足：usage は動詞 use (使う) の名詞形の一つです。もう一つの名詞形 use (使用、用途) との違いが重要です。the use of computers (コンピュータの使用) のように、単に「使うこと」を指す場合は use が一般的です。一方、usage は「どのように使うか」という方法や慣例に焦点を当てます。data usage (データ使用量) のように、使用量を示す場合にも使われます。

37.

解答 ①

【解説】

正解は①「電気の」です。electric は、「電気で動く、電気に関する、電気を生み出す」といった意味を持つ形容詞です。an electric car (電気自動車) や an electric guitar (エレキギター) のように、名詞の前に置いて使われます。②「優雅な」は elegant、③「伸縮性のある」は elastic、④「選挙の」は electoral が適切な単語です。

◆補足：electric と electrical は紛らわしい形容詞です。electric は「電気で動く」のように、直接電気で稼働する製品によく使われます (例：electric toothbrush)。一方、electrical は「電気に関する」という、より広範な意味で使われます (例：electrical engineering 電気工学、electrical equipment 電気設備)。名詞の electricity (電気) との区別も重要です。

38.

解答 ④

【解説】

正解は④there is no point in doing です。この表現は、ある行動をしても意味や目的がない、つまり「～しても無駄だ、意味がない」と述べるときに使います。point はここでは「要点、意味」を指します。There is no point in worrying about things you can't change. (変えられないことを心配しても意味がない)。①there is no doubt that は「～であることは疑いようがない」、②it goes without saying は「～は言うまでもない」、③feel like doing は「～したい気分だ」という意味の表現です。

◆補足：there is no point in doing と非常によく似た表現に it is no use doing があります。どちらも「～しても無駄だ」と訳せますが、no point が「目的・意味がない」というニュアンスなのに対し、no use は「役に立たない、実用性がない」というニュアンスが強いです。多くの場合、互換的に使うことができます。What's the point of doing ...? (～して何の意味があるのか?) という疑問文の形もよく使われます。

39.

解答 ③

【解説】

正解は③demand です。この単語は名詞として、商品やサービスに対する「需要」や、強く命令するような「要求」を意味します。There is a high demand for electric cars. (電気自動車には高い需要がある)。①supply は「供給」で、demand の対義語です。「需要と供給」は supply and demand としてセットで覚えることが必須です。②damage は「損害」、④device は「装置」という意味です。

◆補足：demand は動詞としても「～を強く要求する」という意味で使われます。He demanded an apology. (彼は謝罪を要求した)。in demand で「需要がある、人気がある」、on demand で「要求があり次第」という熟語も重要です。

40.

解答 ③

【解説】

正解は③「生態系」です。ecosystem は、特定の地域に生息する生物群と、それを取り巻く環境（空気、水、土など）を一つのまとまりとして捉えた「生態系」を指します。a tropical rainforest ecosystem (熱帯雨林の生態系) のように使います。①「経済学」は economics、②「環境」は environment、④「エコロジー (生態学)」は ecology です。ecology は生態系を研究する「学問」を指すのに対し、ecosystem はその研究対象である「システム」そのものを指します。

◆補足：ecosystem は ecology と system を組み合わせた混成語です。eco-はギリシャ語の oikos (家、生息地) に由来し、ecology, economy などと共通する接頭辞です。destroy the ecosystem (生態系を破壊する) や protect the ecosystem (生態系を守る) といった形で環境問題の文脈で頻出します。

41.

解答 ③

【解説】

正解は③argument です。この単語は、動詞 argue の名詞形で、二つの主要な意味があります。一つは、怒りを伴う「口論、言い争い」、もう一つは、自分の考えが正しいことを示すための「議論、主張、論拠」です。have an argument with ~ (～と口論する)。①agreement は「合意、同意」で対義語にあたります。②appointment は「(人と会う) 約束、任命」、④amusement は「娯楽」という意味です。

◆補足：argument が「口論」なのか「(論理的な) 議論」なのかは文脈で判断する必要があります。a logical argument (論理的な議論) のように、形容詞を伴うことで意味が明確になることもあります。類義語の debate は、賛成・反対の立場に分かれて行われる公式な「討論」を指します。

42.

解答 ③

【解説】

正解は③significant です。この単語には二つの主要な意味があります。一つは important と同義の「重要な、意義深い」、もう一つは量や程度が「かなりの、相当な、著しい」という意味です。a significant discovery（重要な発見）や a significant increase in sales（売上の大幅な増加）のように使われます。①sufficient は「十分な」、②sincere は「誠実な」、④similar は「似ている」という意味です。

◆補足：significant の名詞形は significance（重要性、意義）です。sign（しるし）という単語が含まれていることから分かるように、「何らかの重要な意味を示す（しるしとなる）」というニュアンスがあります。類義語の important は主観的に「大事だ」という気持ちを表すのに対し、significant は客観的に見て影響が大きい、注目に値するという意味合いが強いです。statistically significant（統計的に有意な）という表現は、研究論文などで頻出します。

43.

解答 ①

【解説】

正解は①「温室」です。greenhouse は、植物を育てるためのガラス張りの建物、すなわち「温室」を指します。green（緑の）と house（家）が組み合わさった単語で、文字通り「緑の植物のための家」と考えると覚えやすいでしょう。②「緑地」は green space、③「灯台」は lighthouse、④「造船所」は shipyard が適切な単語です。

◆補足：近年では、greenhouse は the greenhouse effect（温室効果）や greenhouse gases（温室効果ガス）といった環境問題に関連する文脈で非常によく使われます。これは、地球の大気が温室のガラスのように熱を閉じ込める現象を指すためです。したがって、greenhouse という単語を見たら、文脈に応じて「温室」そのものを指すのか、それとも「温室効果」に関連する話なのかを判断する必要があります。

44.

解答 ④

【解説】

正解は④「recent」です。「recent」は「ごく最近の、近頃の」という意味の形容詞で、過去の比較的現在に近い時点の出来事や物事を指すのに使われます。通常、現在完了形と共に用いられることが多いです。例えば、Have you seen any recent movies?（最近何か映画を見ましたか？）のように使います。不正解の選択肢について、①「ancient」は「古代の」、②「future」は「未来の」、③「distant」は「遠い（時間的・空間的に）」という意味で、いずれも「最近の」とは逆の、あるいは異なる時間軸を表すため誤りです。

◆補足：「recent」は「現在に近い過去」を指しますが、どのくらいの期間を指すかは文脈によりま
す。数日前から数年まで幅広く使われます。類義語として「late」がありますが、「the late king」のよ
うに使うと「亡くなった王様」という意味になり、「latest」は「最新の」という意味になります
(例：the latest model)。コロケーションとしては、「in recent years」(近年)、「a recent study」(最
近の研究)、「recent events」(最近の出来事)などが頻繁に使われます。名詞形は「recency」で、「新
しさ、最近であること」を意味します。

45.

解答 ③

【解説】

正解は③means です。「手段、方法」という意味で使われる場合、単数・複数に関わらず常に s を付け
て means の形で用いるのが特徴です。a means (一つの手段)、many means (多くの手段) のように
使います。by means of ~で「～という手段によって」という重要な熟語になります。①goal は「目
的、目標」で、「手段」を使って達成すべきものです。②result は「結果」、④sense は「感覚」や「意
味」という意味で、文脈に合いません。

◆補足：means は多義的な単語で、「手段」の他に「財産、資力」という意味もあります(例: a man
of means 資力のある人)。動詞 mean (～を意味する) の名詞形だと考えがちですが、「手段」や「財
産」の意味で使う場合は常に s が付く点に注意が必要です。類義語には way や method があります。
way は最も一般的な「方法」、method はより体系的、専門的な「方法」を指すのに対し、means は目
的達成のための具体的な「手段」というニュアンスが強いです。

46.

解答 ④

【解説】

正解は④limitation です。この単語は、何かを制限する規則や事実、あるいは能力や資源などの「限
界、制約」を意味します。通常、複数形の limitations で使われることが多いです。Everyone has their
own limitations. (誰にでも自分自身の限界がある)。①situation は「状況」、②reputation は「評
判」、③invitation は「招待」という意味で、いずれも文脈に合いません。

◆補足：limitation は動詞 limit (～を制限する) の名詞形です。limit も名詞として「限界、制限」と
いう意味で使われますが、limit が主に「超えてはならない境界線」というニュアンスなのに対し、
limitation は「能力や機能が及ばない範囲、欠点」というニュアンスで使われることが多いです。例え
ば、speed limit (制限速度) とは言いますが、speed limitation とはあまり言いません。一方、
limitations of the study (その研究の限界点) のように、弱点や欠点を指す場合は limitation が好まれ
ます。

47.

解答 ②

【解説】

正解は②「develop」です。「develop」は物事をより大きく、より良く、より進んだ段階へと「発展させる、開発する」という意味を持つ基本的な動詞です。経済、技術、個人のスキルなど、幅広い対象に使うことができます。例えば、**The company plans to develop a new software.**（その会社は新しいソフトウェアを開発する計画だ。）のように用います。不正解の選択肢について、①「destroy」は「～を破壊する」、③「maintain」は「～を維持する」、④「reduce」は「～を減らす」という意味であり、いずれも「発展させる」とは異なる意味を持つため誤りです。

◆補足：「develop」の語源は、古フランス語の「desveloper」（包みを開く）に由来します。これは「des-」（否定・分離）と「veloper」（包む）から成り立っており、元々は「内に秘められた可能性を外に解き放つ」というニュアンスを持っていました。この語源を知ると、「スキルを伸ばす（develop skills）」や「病気が発生する（a disease develops）」といった多様な意味の根底にある共通のイメージを掴みやすくなります。派生語には「development」（名詞：発展、開発）、「developer」（名詞：開発者）などがあります。

48.

解答 ④

【解説】

正解は④「データ、資料」です。**data** は、判断や計算の基礎となる事実や数字、すなわち「データ、資料、情報」を指します。**collect data**（データを集める）や**analyze data**（データを分析する）といった形で使われます。①「日付」は **date** で、**data** と混同しやすいので注意が必要です。②「借金」は **debt**、③「義務」は **duty** が適切な単語です。

◆補足：**data** は、元々ラテン語の **datum**（与えられたもの）の複数形です。そのため、厳密な文法では複数扱い（**These data show...**）ですが、現代の英語、特に日常会話や一般的な文章では、単数の集合名詞として扱われること（**This data shows...**）が非常に多くなっています。英検2級レベルでは、不可算名詞または単数扱いと覚えておけば問題ありません。

49.

解答 ②

【解説】

正解は②「電気」です。**electricity** は、エネルギーの一形態である「電気、電力」を指す不可算名詞です。**generate electricity**（電気を作り出す）や**save electricity**（電気を節約する）のように使います。①「優雅さ」は **elegance**、③「弾力性」は **elasticity** です。④「電子」は **electron** で、電気の素となる粒子を指すため、**electricity** とは区別が必要です。

◆補足：「電気の」という形容詞には **electric** と **electrical** があります。**electric** は「電気で動く」製品（例：**electric car**）、**electrical** は「電気に関する」という広範な分野（例：**electrical engineering** 電

気工学)を指す傾向があります。electricity はギリシャ語で「琥珀」を意味する elektron に由来します。古代ギリシャで琥珀をこすると静電気が発生することが知られていたためです。

50.

解答 ①

【解説】

正解は①**make up** です。この句動詞は非常に多くの意味を持ちますが、その一つに「(部分が全体を)構成する、占める」という用法があります。Women **make up** 40% of the workforce. (女性が労働力の40%を占めている)。②**take up** も「(場所や時間を)占める」という意味がありますが、「構成要素である」というニュアンスはありません。③**set up** は「～を設立する」、④**put up** は「～を建てる」などの意味があります。

◆**補足** : **make up** の他の重要な意味も覚えましょう。① (話などを) でっちあげる: He **made up** an excuse.、② 仲直りする: They **made up** after the argument.、③ 化粧をする: She is **making up** her face.、④ 埋め合わせをする: **make up** for lost time.。受動態の be **made up of** ~ (～から構成されている) という形も頻出です。これは consist of ~ や be composed of ~ とほぼ同じ意味です。
